

主よ、わたしたちは  
だれのところに行きましょうか

ヨハネ 6 : 60 - 69



司祭 ヨハネ 井田 泉

2012年8月26日

聖霊降臨後第13主日

奈良基督教会にて

「そこで、イエスは十二人に、『あなたがたも離れて行きたいか』  
と言われた。シモン・ペトロが答えた。『主よ、わたしたちはだ  
れのところへ行きますようか。あなたは永遠の命の言葉を持っ  
ておられます。あなたこそ神の聖者であると、わたしたちは信  
じ、また知っています。』」ヨハネ 6:67 - 69

ペテロは言いました。「あなたは永遠の命の言葉を持っておら  
れます。」

ペテロは問われて、イエスにこう答えました。けれどもそれ  
にとどまらずに彼は、2000年後のわたしたちにも呼びかけてい  
ます。

「この方が永遠の命の言葉を持っておられる。」

この方、イエスがわたしたちを生かしてくださる。この方に  
永遠の命がある。ほかのだれかではない。この方の言葉こそが  
わたしたちを永遠に生かす。

「あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。あなたこそ神  
の聖者であると、わたしたちは信じ、また知っています。」

6:68 - 69

これはペテロのイエスさまに対する信仰告白です。この言葉  
をイエスに向けてはっきり口にしたとき、彼の生きる姿勢が定  
まりました。彼の中に、言わば信仰の骨格のようなものが形成  
されました。

わたしたちにとってもそれは同じです。信仰は成長して、しっかりしたものになっていかななくてはならない。信仰告白をすることによってわたしたちの信仰の骨格が作られるのです。礼拝の中でわたしたちはニケヤ信経を唱えるのですが、これが生きた信仰告白となる時、わたしたちの信仰はよりしっかりしたものになっていきます。

ペテロの信仰告白がどのようなとき、どのような場面で起こったかを見つめてみることにします。

非常に大勢の人々がイエスを求め、イエスについて来ていました。人々はイエスの言葉と業によって慰めと力を受けました。イエスとともに歩む中で、人々はほんとうに祈ることを知りました。乏しい食べ物のかち合いが起こり、心の交流が生まれました。それによってイエスご自身もどれほど喜びと感謝を味わわれたことかわかりません。ここに神の国が来ていることを、イエスも、また多くの人々も経験しました。

けれどもその一方で、人間の闇もまた色濃く現れてきていました。とてもこのまま放置できないような事態が生じていました。

ひとつは、イエスを担ぎ上げて自分たちの目的達成の手段にしようという動きが起こったことです。イエスを信じて従うのではなくて、反対に自分たちの目的にイエスを従わせようとする人々の強い動きがありました。イエスの力、イエスの人望、

イエスの影響力をそっくり自分たちのものにできたら、国を支配することもできるに違いない。イエスを捕らえ祭り上げて、王にしようとしたのです。イエスはそれを逃れてひとり山にこもられました（ヨハネ 6:15）。

イエスを王に担ぎ上げようとする計画は失敗し、その人々の多くは去りました。けれどもイエスについて来ている人々の中になお、苦いものをイエスは感じておられました。それは、イエスがまごころから伝えていることには耳を貸さず、ただイエスについて行けば得をするというのでついて来ている人々です。イエスのもとにいれば、パンを食べて満腹できる。イエスの大きな力と威光と名声をバックにして、自分たちも偉くなった気がするし、やがて今よりももっと力と名声を得ることができるだろうと期待しています。

自分の弟子たちの多くが、この世の損得、利益、力、名声に捕らわれていることを知ることは、イエスにとって失望落胆することでした。

イエスはこう言われます。

「命を与えるのは“霊”である。肉は何の役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、命である。」6：63

肉の思い——この世の損得、優劣、おごり、強い者への迎合——それらは人を救わない。その世界へのとらわれから解放しよう

としてイエスは人々を招かれました。ほんとうの命に生かすために、ご自分をパンとして与えると言われました。

しかしその結果、別の期待を持っていた人たちはイエスに拒絶されたと感じ、失望したばかりではなく恨みを抱くに至りました。

それが今日の福音書の場面です。

「このために、弟子たちの多くが離れ去り、もはやイエスと共に歩まなくなった。そこで、イエスは十二人に、『あなたがたも離れて行きたいか』と言われた。シモン・ペトロが答えた。『主よ、わたしたちはだれのところへ行きましょうか。あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。あなたこそ神の聖者であると、わたしたちは信じ、また知っています。』」ヨハネ 6:66 - 69

イエスに喜びが起きました。困難の中で信仰告白がなされたとき、イエスと弟子たちの間に熱い心の交流が生じました。

ペテロの言葉を確かめてみましょう。

「主よ、わたしたちはだれのところへ行きましょうか。」

わたしたちは他のだれのところにも行きません。誘惑があっても、別の誘いがあって、迷いがあったのは事実です。しかし今、もう一度決意して、イエスさま、あなたについて行きます。あなたから離れません。

「あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。」

「あなたこそ神の聖者であると、わたしたちは信じ、また知っています。」

あなたこそ神の聖者。神から来られた聖なる方。わたしたちはあなたをとおして聖なる神に触れています。あなたにおいて生ける神が現れておられる。わたしたちはかつてそう信じ、いまはっきりと信じます。

ここでペテロが「わたしたちは信じ、また知っています」と言った言葉に注意しましょう。「わたしたちは」。他の人たちがどうであろうと、わたしたちは信じた。これを共にするのが信仰共同体です。イエスの愛によって生かされ、イエスへの真実の思いで結ばれるのが真の教会の姿です。

「知っています」。信仰は一方的に思い込むことではありません。神さまから示されたから知った。事実に触れてそれを認識したのです。

わたしがあなたがたを招いた。神の国のためにわたしがあなたがたを招いた。あなたがたはわたしから離れて行ってはならない。あなたがたこそ神の国の中核。あなたがたのその信仰告白から教会が始まるのだ——それがイエスのペテロに対する、そしてわたしたちに対する呼びかけです。

ペテロの信仰告白によって、イエスを信じて従う道が開かれました。その道をわたしたちも進んでいきます。

祈ります。

主イエスさま、あなたはどのようなときにもわたしたちを愛し、わたしたちを招いていてくださいます。かつてペテロがあなたの中に神を見、あなたにおいて神に触れたように、わたしたちもあなたの中に神を見、あなたにおいて神に触れさせてください。そしてあなたへの信仰告白を新たにして、信じて従わせてください。あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。  
アーメン